



会課  
福祉社

## 平和の願いを次世代に継承 戦没者追悼式・平和祈念式典

恒久平和を祈念する「庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典」を8月20日、庄原市民会館で開催しました。遺族をはじめ市民、小中学生など約650人が参列し、本市出身の戦没者2923人のめい福を祈り、平和への誓いを新たにしました。

滝口季彦市長は「今日の平和が、戦没者の尊い犠牲を礎とし、残されたご家族をはじめ、多くの方々の不断の努力によってもたらされていることを忘れてはならない。戦争がもたらした痛み、苦しみ、悲しみの体験を風化させることなく次世代へ語り継ぎ、平和への努力を続けることが戦没者の願いであり、私たち市民の責務」と式辞を述べました。式典では、参列者全員による黙禱や献花のほか、関西吟詩文や化協会の追悼吟詠や比和小学校の児童合唱、庄原中学校吹奏楽部による演奏が行われました。

会場ロビーには、県内戦没者の遺影・遺書のほか、児童・生徒、市民による折鶴などが多数飾られ、真剣な表情で平和を祈る子どもたちの姿が多くありました。



追悼の言葉を述べる  
庄原市遺族連合会の井澤聖昭会長



平和への祈りを込めて歌う比和小の児童

生涯学習課

## ふるさとで友と誓う新成人 平成21年度庄原市成人式

平成21年度庄原市成人式が8月15日、庄原市民会館で行われました。今年対象となった新成人は、平成元年4月2日から平成2年4月1日までに生まれた市内在住者および本市出身者で、303人が式典に出席しました。

滝口季彦市長は「社会のルールを守りながら、大いなる夢と何事にも果敢に挑戦する勇氣、そして、感受性豊かな心を原動力に、社会で持てる力を存分に発揮され、夢の実現に向かって歩んでください」と激励しました。また、新成人を代表し、加藤佑典さん(上原町)が「今こうしてこの場にいられるのも家族や友人、地域の皆様方の支えがあったからこそ。今日のこの感激を、私たちの人生に活かし、名実ともに成人になります」と決意を述べました。



新成人の決意を述べる加藤さん



祝賀パーティーを楽しむ新成人

式典の後、サイン(手話)シンガーソングライター渡辺りえこさんが「共に生きていこうとする気持ち」と題し、記念講演を行いました。両親の耳が不自由であったことや手話と歌を使って独自のジャンルを確立するという夢に向かって活動を続けているという自らの経験を通して「夢の実現には、自分を取り巻くすべての人に感謝して、出会いを大切に、何度つまずいても目標をしっかりと持つてがんばりましょう」と新成人にエールを送りました。

祝賀パーティーでは、それぞれの近況を話しながら、懐かしい友人との再会を楽しみました。

治興課  
自治振興

## 地域づくりの事例を発表 自治振興区活動報告会

庄原市自治振興区活動報告会を7月25日、口和ヒューマンライツで開催しました。

会場には、平成20年度に自治振興区活動促進補助金を活用した18自治振興区が、活動の成果をポスターにして掲示。そのうち5自治振興区が活動内容を発表しました。

地域づくりのヒントを見つけようと参加した約200人は、ポスターを写真に撮ったり、事業内容について質問したり、自治振興区間の交流を深めていました。

審査会会長の野原建一(広島県立大学名誉教授)は「報告会の開催には



多くの市民が詰めかけた報告会

農業委員と認定農業者等との意見交換会を8月6日、庄原市ふれあいセンターで開催しました。

広島県農業会議事務局長の木原政弘さんが「農地制度の見直しと農業振興」について講演。続いて意見交換を行いました。

認定農業者からは耕作放棄地への対応や、法人化にともなう問題など活発な意見が出されました。

それに対し農業委員は「農家の経営は厳しく、農村地域に活気をもたらし、明るい未来を創造するため国政レベルの施策が緊急に求められている。出された意見を活動に反映し、

業員  
農委

## 農業経営の課題を共有 認定農業者等と意見交換

農業委員と認定農業者等との意見交換会を8月6日、庄原市ふれあいセンターで開催しました。

広島県農業会議事務局長の木原政弘さんが「農地制度の見直しと農業振興」について講演。続いて意見交換を行いました。

認定農業者からは耕作放棄地への対応や、法人化にともなう問題など活発な意見が出されました。



認定農業者の意見を聞く農業委員

農業の活性化に努力したい」と答えました。

林業課  
農振興

## 旬野菜で庄原市の魅力を発信 食農体験イベントin比和

食農ネットワーク庄原が7月20日、比和町で「食農体験イベントin比和」を開催しました。

これは、農業体験や旬の農産物を利用した食体験を通じて、庄原市の農産物の魅力を広く発信し、庄原ファン獲得につなげるのが狙い。市内外から20人が参加しました。

参加者は、アスパラガスの収穫・

出荷作業、小刀を使ったヤマメの竹串調理などを体験し、はんごう炊きによる庄原産米や食農ネットワークの委員が調理した旬の野菜を使った料理を食べました。黒長文字さんは「アスパラガスがスーパーに並ぶまでの工程を学び、規格にあった商品をつくる大変さがよく分かった」と話していました。

食農ネットワーク庄原は、庄原の「食」と「農」を見つめ直し、地域資源を活用した交流事業・農業振興・地域活性化を図ろうと市が設置した組織。今後もイベントや機関紙「しよらば」ら里山の旬だより」発行などを通じて、庄原市の魅力を発信します。



アスパラガスの出荷作業を見学



和所  
 口支

## 口和「音の里」へ第1歩 クラスタのまち実現プロジェクト

口和地域を「音の里」にしようと、口和郷土資料館に「水琴窟」を設置し、試聴を始めました。

これは、各地域の個性や特長を生かした地域づくりを進める「クラスタ」のまち実現プロジェクトの一環。口和地域は「音の里構想」を掲げ、ワークショップ委員と事務局職員で、「水琴窟制作」BGMと音のCD化



水琴窟の試作品を作る委員

「コンサート開催」の3つの部会で活動を進めています。

水琴窟とは、日本庭園の技法の一つで、水滴を落としたときに発生する琴のような反響音を庭園で楽しむもの。これまで視察や研究を重ね、試作品が完成。今後は各自治振興区の集会所などへ設置していく予定です。

総務課

## 原因分析や再発防止策を検討 不正防止対策本部を設置

市は、水道課職員が詐欺容疑で逮捕されたことを受け、事務担当副市長を本部長として、課長などで構成する庄原市不正防止対策本部を設置しました。

現在、対策本部のなかに「職務公正部会」、「設計・積算部会」、「入札・契約制度・検査部会」の3部会を設け、不正行為の原因分析や再発防止策などについて検討しています。

今後、外部の有識者などで組織する庄原市不正防止対策委員会を設置し、対策本部が策定する不正防止対策について、提言や評価、検証を受け

林課  
 農振興

## 専業農家を目指す若者3人へ奨励金 市農業後継者育成事業で初認定

市内で新規就農を目指す人を支援する「庄原市農業後継者育成事業奨励金」を本年度創設し、第1回の認定証交付式を行いました。

面接などの審査会を経て採択が決定した3人は、滝口季彦市長から認定証を受け取り、「夢を持ってがんばってください」と激励を受けました。将来、アスパラガスを作りたいという松川剛大さんは「認定証を



不正防止対策本部「職務公正部会」

ながら実効性のある対策を実施していきます。

受け取り、農業に対する熱い気持ちにさらにもみ上げてきた。この事業に後押しされながら庄原市の農業後継者としてがんばりたい」と抱負を語りました。

この事業は、農業者の高齢化・後継者不足などの状況を受け、地域の担い手となる農業後継者育成・確保を目的としたもの。市内で新たに農業の専業経営を目指し、市内の農家・農業生産法人・県立農業技術高等学校で1年以上研修を行った後、1年以内に市内で農業専業経営を開始する者(50歳以下)に対し、研修期間中2年間を上限とし月額10万円を奨励金として交付します。

今後も引き続き募集を行っていますが、お気軽にお問い合わせください。



滝口市長から認定証を受け取る松川さん